

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0970102604		
法人名	医療法人 北斗会		
事業所名	グループホーム宇都宮		
所在地	栃木県 宇都宮市平出町377番地1 電話 028-689-6600		
自己評価作成日	平成 27年 8月 5日	評価結果市町村受理日	平成 27年10月 8日

※事業所の基本情報は

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/">http://www.kaigokensaku.jp/09/</a>
------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 27年 8月 25日	評価確定(合意)日	平成 27年 9月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

併設病院とは医療連携体制をとっており、24時間体制での対応が可能である。週に一度看護師による定期訪問を行いご利用者の健康管理を行っています。また、同敷地内には他にも介護老人保健施設が併設されています。  
1日の日課は特に決めておらず、ご利用者の生活習慣・ペースに合わせて「自分らしく」・「家庭的な生活」が送れるよう支援しています。自治会に加入し、行事にも参加させていただき地域の方と交流を図っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設11年を迎えた2階建て2ユニットの事業所で、敷地内には同法人の病院、介護老人保健施設、糖尿病センターが併設されている。自治会に加入して2年目になり、地域の行事に参加して徐々に地域との繋がりの輪を広げている。地域のボランティアや中学生の職場体験、専門学校の実習生を多く受け入れは利用者の楽しみでもあり、職員にも新鮮さがあり共に学ぶ良い機会になっている。運営推進会議は家族の参加も多く、活発な意見交換がなされ有意義な会議となっている。併設病院から月1回の訪問診療と週1回の看護師の訪問があり、24時間対応可能であり、利用者・家族にとって大きな安心に繋がっている。日課は特に決めておらず、理念である家庭的な雰囲気の中で「その人らしい生活」・「真心のある介護」の実践に、「やらないで後悔するよりまずやってみる事を心がけ、毎日少しでも改善して行きたい」という前向きな管理者を中心に職員が丸となってサービスの向上に取り組んでいる事業所です。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) (1階) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム会議やカンファレンスで、理念の確認を必ず行っており、申し送りや朝礼で唱和している。	一人ひとりを大切に思いを汲んでその人らしい生活を如何に利用者に提供できるかを念頭におき、毎朝申し送り時に唱和している。ホーム会議やカンファレンスなどでも理念である「真心のあるケア」の実践状況を確認し合い意思統一に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会で地域の、お祭りに利用者に参加したり、平石地区市民センターへ、コンサート鑑賞へ出かけて交流を図っている。	自治会に加入して2年を経て初めて地域内の神社のお祭りに出かけたり、地域の行事として行われているゴミ拾い、草取りなどに利用者も参加し地域との繋がりの輪も広がっている。自治会の協力を得て敬老会、芋煮会も予定している。	自治会から協力するというアドバイスも得られており、積極的な地域行事への参加や情報発信に期待します。更に予定されている事業所行事への地域住民の参加などを行い、地域との繋がりの深まりに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や外出先で出会う人々に対し、認知症に対する理解を求めながら支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では以前、利用者が利用していた全ての包括へ開催日をFAXにて送り参加依頼をしている。御家族様や自治会長へ活動報告をし、意見交流を図っている。	定期開催し、バイキングや絵手紙作成などの催し物も併せて行い、家族は常時3～9名の参加がある。状況報告の質疑に加え意見提案もあり双方向の会議になっており、更に有意義な会議になるよう家族アンケートを行うなどの努力もしている。利用開始前の地域包括職員の参加もあり情報は参考になっている。自治会長より地域の理解を得る協力は惜しまないとのアドバイスも得られるなど意義ある会議となっている。	更に有意義な会議にするために、民生委員、隣接の駐在所の警察官、議題によっては消防署などの参加も検討される事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	変更申請時に市役所へ訪れた時等に事業所の取り組みや相談事を伝えている。事故発生時には直ぐ連絡をし適切な対応を行えるよう助言を頂いている。	変更申請や事務的な報告などで市役所へ出向いた際には、事業所の取り組み状況報告や情報入手などを行い協力関係を築く様になっている。制度の変更で分からないことや事業所では判断に迷うことが生じた場合などは電話で相談しアドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必須研修として年1回全職員が受けており、正しい理解を図っている。基本施錠はせずに対応しているが、危険が伴う時は主治医と連携を図り期間や時間を決めケアプランを作成し、ご家族に同意を得ている。	年1回は全職員が身体拘束の研修を受け理解を図ると共に、法人内の「身体拘束に関する委員会」にも参加し、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず見守り寄り添うことで安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し学習を進め、職員同士、共通理解を深め、自尊心に配慮した言葉遣いやケアの統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・内部の研修後には、必ずホーム会議などで、資料のコピーを配布し伝達研修を行って確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書等の書類の説明を行っている。同意書にサインを頂き、随時、不安や質問がないか伺い、不明な点があった場合には、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時には、職員が、こまめに声をかけを心掛けている。利用者ごとに担当の職員を決め、信頼関係が築けるような環境作りをしている。	利用者には様々な機会に話しかけ何を思い、したいのかを聴くように心掛けており、家族の訪問時にも気軽に意見や要望が出せるような雰囲気作りに努め、個別ケアなどサービスの充実に反映させている。運営推進会議には毎回家族の参加があり積極的な意見、提案、要望があり運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務中でも、話しやすい雰囲気作りを心掛け、ホーム会議やカンファレンスで意見の交流が出来る様にしている。その場になかった職員には申し送りノートを活用している。	ホーム会議、随時行うカンファレンス、日常の業務の中でも些細なことでも話しやすい雰囲気ができている。主任は意見、要望は前向きに取り上げ実行してみようという姿勢を持っており、利用者がやってみたい事をクラブ制にしてはという提案を取り上げ現在、クラフト、手芸、編み物、ヘルシークッキングなど数種類のクラブを発足させ利用者の喜びとなっている。また夕食時に居酒屋風の雰囲気を演出するなどの意見提案も反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規定により給与水準や労働時間は決められている。常に勤務状況の把握や業務内容の改善に努めている。やりがい、働きやすい職場を目指しており報・連・相を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症だけにとらわれず高齢者介護全般の研修において行われる外部の研修に職員を参加させている。他の職員に伝達をし、施設全体のレベルアップにつなげており月に1度のホーム会議内における研修でも機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への運営推進会議への参加や地域の平石地区防災ネットワークを通じ各施設に協定を組んでいる。防災訓練への参加などを行いネットワークの構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの生活の中で、ご利用者の様子を把握し表情の変化に気づき対応できるように配慮している。個別ケアにも時間を作り信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階から、ご家族の話を傾聴し、なんでも相談でき話しやすい環境を作り対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設職員とケアマネジャーなど法人内職員で連携を図り、ご利用者の状態に合ったサービスを提供できるように支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、洗濯物たたみ、食事の盛り付けや、おやつ作り等、季節ごとの飾りつけなど、出来ることを見つけて職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日用品など足りないものが、あった時は、電話をして来所して頂き施設での様子を伝えている。四ヶ月に一度ホーム便りにて行事などの案内、行事の参加などの声かけをし、ご家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔、好きだったことを聞き話しながら、ご家族にも協力を頂き外食したり楽しみを増やすように努めている。	日常のコミュニケーションから意識的に聞き出したり、家族からの情報も参考に馴染みの人や場所の把握に努めている。利用者の馴染みの美容室やスーパーマーケットなどの希望に沿って個別支援をしている。家族の来所時には外出や外食の協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティやレクリエーションなどを通して、間をとりもつなど、ご利用者同士で交流できるように支援している。グループに分けて外出したり席替えを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、退居された、ご家族には了解を頂き、ご利用者と施設や病院へ一緒に伺うこともある。必要に応じて、ご家族と連絡を取りフォローに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりに担当職員がつき、生活していくうえでの希望や要望を伺い、カンファレンスで共有させている。また個別ケアの実施により信頼関係を築いている。カンファレンスで共有しケアプランに反映させている。	担当職員が中心となり日常のコミュニケーションから、暮らし方の希望など訴えかけているものを受け止め、さらに日々の行動や表情からも一人ひとりの思いを汲み取っている。日課は特に定めたものではなく強制せず本人の意思を尊重して支援している。個別の朝食時間や入浴後のお酒などの希望に沿っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご利用者からの情報等収集したり、また同意を得た上で、他のサービス事業所の担当ケアマネジャーからも情報を収集している。ご家族の面会時に確認し情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルの測定、排泄、食事摂取状態を把握し体調管理に努めている。体操は、ご利用者全員で参加。その日の身体状態等に合わせ、お一人ひとりのペースで過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族からの希望や要望を伺いカンファレンスを行い介護計画の作成を行っている。作成した介護計画は、ご家族に説明し承諾を頂いている。ご利用者の状態に変化があった場合は、随時計画の変更を行い、ご家族に説明している。	介護記録を基本に、利用者・家族の関わりの中で把握した意見や要望をケア会議で話し合っている。それぞれの意見・要望をできるだけ多く取り入れ現状に即した利用者本位の計画となるように反映させている。利用者の状態の変化に伴って適宜介護計画の見直しを行い適切なケアの実践に繋げている。介護計画は、本人・家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子やケア実践等、個別記録に記入し、その記録をもとに、カンファレンスを行い、ケアの方法や介護計画の見直しを行い統一ケア実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院受診や、週一の定期訪問による医療相談を通じ、医師、看護師、管理栄養士等と連携を図り、ご利用者の状態を把握し共有している。法人内の紹介等、必要に応じた介護サービスの提供をしいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、運営推進会議を通して、自治会での取り組みや情報を得ながら、地域との交流が深められるようにしている。平石地区の地域行事への参加や地元中学校の体験学習の受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に、かかりつけ医を決めている。受診については、基本家族の協力を得て、対応しているが、状態の変化があった場合は、職員が同行する。月一回、併設病院からの往診や週一回、看護師の定期訪問があり医療ケアが受けられる。	本人・家族の希望を尊重して、全員隣接の併設病院がかかりつけ医である。併設病院から月1回訪問診療、週1回看護師の定期訪問があり、24時間体制で対応できるよう連携を取っている。他科受診は家族対応を原則、必要に応じて職員が同行している。日ごろの健康管理にも対応できており本人・家族にとって安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師による週に一度の定期訪問にて医療訪問を行っている。ご利用者の急変、状態の変化があった際は、24時間体制で併設病院で対応できるよう連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の、早期退院に向け、医療関係者と相談、話し合いをし連携を図っている。ご家族と密に連絡を取り、他院転院時等の不安を軽減できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関において、病院のソーシャルワーカーと早期退院に向け話し合いを行っている。他院転院の際には、定期的にご家族様の不安が軽減できるよう連絡をし、医療機関と連携体制を図っている。	重度化の兆しが見えたら早い時点から話し合いを持ち、医療機関や他施設の紹介などの対応を基本に考えている。関係者と連携を取り事業所で何が出来るか、出来ないかの検討を模索している。昨年急死した利用者があり、職員も事態に備えて重度化に向けた勉強会や話し合いを持っている。急変時に対しては「医療方針確認書」を家族と取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、宇都宮シルバーホームの研修会に参加し、急変時の対応、応急手当の訓練を受けている。急変時の対応、併設病院との連携についてマニュアル化されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、防災訓練を実施している。毎月、10日に施設内の防火自主点検を実施している。法人内、3施設合同の防災訓練も実施している。その際には、平石地区防災ネットワークの方々の参加もあり、地域と連携を図っている。	事業所単独と、3施設合同の訓練をそれぞれ行い、単独の訓練は夜間を想定し敷地内の2施設から応援を得て実施している。耳の不自由な方に火災を知らせる方法が今後の課題である。3施設合同の訓練は、地区防災福祉ネットワーク、消防署の参加を得て昼間を想定し、マニュアルによる訓練、消防署への通報、消火器による放水訓練を行っている。毎月10日は防火点検を自主的に行っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 (1階) 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者、一人ひとりの考え方や意見を尊重している。受容し自尊心を傷つけないよう対応している。法人内にてプライバシーの確保、秘密保持の研修を受け徹底している。	人生の先輩として尊敬の念を持って接し、利用者の考え方や意見に対しては受容の姿勢で耳を傾け誇りやプライバシーを損ねないようにしている。特に言葉遣いには常に気をつけ、職員間でもお互いに注意し合いながら対応している。個人情報については全職員研修(Pマーク受証)を受け秘密保持に努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者、一人ひとりに合った生活が送れるように支援している。ご家族と信頼関係を築き情報を得ている。ご利用者の意思を尊重し、希望を把握し支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の気分や体調に合わせて、予定を立てている。ご利用者の希望や要望を尊重し職員間で連携し対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合ったものや、愛着のある衣類、日用品、化粧品等、使用できるようにしている。温タオルにて顔や足の清拭も毎日行っている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や出前、外食では、ご本人の好きな物を選んで頂いている。食器類は、本人専用の物で提供している。おかし作りを月に二回ほど行い自分が作った物を楽しむ機会をつくっている。	食材には特にこだわり、魚、肉も新鮮で質の良いものを専門業者から購入している。利用者の好みや体調に配慮し職員が交代で調理している。副食も4品と充実している。飲み物は何時でも好きなものを飲めるようにしている。庭先の菜園で採れた野菜が食卓に出されることもある。外食に出かけたり、出前をとったり、誕生日にはケーキや好きなメニューで食の変化を楽しんでいる。職員と一緒に自分の食器を後片付けをしている利用者も見られた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを使用し調理を行っている。温度版にて摂取量を記録し特変があった場合は看護師に相談したり、職員間で話し合い、その方に合った方法で対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後には、歯磨きの声かけや、うがい薬を使用し口腔内のケアを行っている。義歯洗浄剤を使用し殺菌や消毒、口臭防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (1階)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンの把握に努め、一人ひとりに合わせて声かけや見守り介助している。	大半が自立しており、昼間オムツを常時使用している利用者は少なく、さりげなく声掛けをしてトイレ誘導を行っている。家庭でオムツを使用していた利用者がトイレ排泄、リハパン使用へと改善した利用者もいる。夜間も自立者が多く職員は見守る程度の支援となっている。自立継続に向け職員は状況を見守りながら支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、体操や朝のゴミだし同行。アクティビティや散歩等、運動する時間を作っている。食物繊維の多い食材を使用したり乳製品や乳酸菌の豊富な食材も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活のリズム、体調に合わせて声かけをし入浴剤を用いながら希望される時間に入浴して頂いている。冬季のみ希望にて夜間入浴を行っている。	本人の希望を最優先にし、週2回以上の入浴はできるよう配慮し、希望する時間帯に入浴をしている。冬季のみ夜間入浴が可能である。入浴剤や菖蒲、ゆずを入れて入浴を楽しめるようにしている。入浴を好まない利用者には先に着替えを脱衣所に用意したり、誘導方法を工夫している。利用者との信頼関係が深まり本音の聴ける場であり貴重な時間でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズム、日々の状態の把握に努め、状況に合わせた休養がとれるようにしている。安心して休めるように、使い慣れしんだ寝具類を持ち込んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示、薬剤情報提供書を職員全員で共有し服薬の管理を行っている。状態の変化がみられた際は、医師、看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶入れ、ゴミ捨て、調理等、一人ひとりの身体状態、力に合わせた役割をもって頂いている。飲酒の機会を設け、飲めない方でも楽しめるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴、近くの店で食事や買い物を行っている。個別ケアでは、希望に沿って少人数での外出を取り入れている。ご家族と一緒に参加できる行事を企画している。	その日の希望に沿って周辺を散歩したり、車で近くのショッピングモールに出かけ買い物や好きな食事をするなど個別支援をしてしている。計画的に四季折々の花見、イチゴ狩りなども実施している。家族訪問時には戸外の散歩や食事などに同行をお願いするなどの協力を依頼している。	



自己	外部	項目	自己評価 (1階)		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望がある場合は、ご家族と相談したうえで、お金を所持している。買い物時は、支払いを、ご本人が出来るよう支援し、立替請求している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時には、施設の電話を使用して頂いている。手紙の取次の支援も行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光が適度に入り、木目を基調とした暖かく、ゆったりとしたリビングには寛げるスペースも設けている。季節ごとの掲示物や作品、行事の写真を壁に飾っている。		リビングは広さも十分あり、利用者の居室、キッチンが見通せて、見守り、安全確認などが自然な雰囲気の中で出来るような造りになっている。周りの壁には各クラブの作品や行事の写真が掲示されている。ソファでテレビを見たり、お隣同士で話をしたりゆったりとした生活をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席とテーブル席があり、一人でテレビや雑誌を見たり、仲の良い方同士で話をしたり、ゆっくり過ごせるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を、ご家族と相談の上、持ってきて頂いている。ダンス、写真、仏具等、その人らしい居室で過ごせるよう配慮している。		居室は職員も手伝って整理整頓され、長年家庭で愛用していたと思われるもの、手作りの作品、家族の写真、なかにはご主人の位牌などを持ち込み、その人らしい居室になっている。その人の好みに合わせてベットの配置を変え居心地良く過ごせるよう配慮し支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングには、今日の日付が分かる手作りカレンダーを掲示している。分かりやすい目印をトイレや浴室につけ、居室には表札をつけている。			